

交通死亡事故ゼロ2年を達成 県警本部から賞賛状

町内での交通死亡事故ゼロ2年を達成し、県警本部から賞賛状が贈られました。役場で行われた伝達式には菅原町長をはじめ、町交通指導隊の丸山隊長や交通安全母の会連合会の千葉会長ら町内の関係団体の代表者が出席し、一関警察署の橋恵市署長から町長に賞賛状が手渡されました。

橋署長は「3年、4年とこの記録が継続するように、今後も関係機関一丸となって取り組んでほしい」と期待を寄せました。

町長をはじめ、伝達式に同席した関係者は、町民の皆さんと一緒に、安全・安心なまちづくりを目指し決意を新たにしていました。



上 記録継続に向け決意を新たにする関係者/右 橋一関警察署長から賞賛状を受け取る菅原町長



町長が皆さまのところに 「平泉町まちづくり地域懇談会」の開催募集

住民参加によるまちづくりを目指し、町民との直接対話による意見交換を目的に、町長が地域に出向き、懇談する「平泉町まちづくり地域懇談会」を行います。

◎申し込みできる人は？

行政区または町内で活動する各種団体でお申し込みください。(参加員数は、何人でも可)

◎開催場所は？

開催場所は、地区公民館等の施設とします。申込者の方に開催場所の確保をお願いします。

◎開催日時は？

原則として、平日の午前9時から午後9時までの間で、2時間程度を目途にお願いします。

◎申し込み方法は？

原則として、開催希望日の1カ月前までに、総務企画課と開催日程等の調整を行い、所定の「まちづくり地域懇談会申込書」により、総務企画課まで提出してください。

※この地域懇談会は、より良いまちづくりを目的とした町民皆さんとの対話の場です。苦情や陳情、糾弾の場ではないことをご理解ください。

問い合わせ先…総務企画課 ☎46-5578

平泉を掘る

4月から5月にかけて志羅山遺跡の南西角を発掘調査しました。調査範囲の南側は削平されていましたが、北側では、柱穴や大きい土坑、東西方向に並ぶ四角く掘った穴の列などが見つかりました。

柱穴は40個ほど見つかり、何棟分か組み合わせが考えられます。

土坑は地上に開いている口の大きさが2m、深さが1.9mほどでした。下が砂の層を掘って造られていることや、深さから井戸の可能性があり、12世紀の甕の破片やかわらけを少し出土しました。

四角い穴の列は、東西に整列したように13個並んで見つかりました。1個の大きさは大体75×60cmで、深さは30cmです。この中に6～10cmの四角い杭のようなあとが3個ずつ並んでいました。杭状のあととも東西方向に並んでいます。このような跡は今まで見つかりません。この掘り込みの延長上にある94次調査では、

発掘最前線⑨⑥ 志羅山遺跡第102次発掘調査

似た状態の穴が数個見つっていますが、もしかしたら同じものかもしれません。今回見つかったことで土地を区画した塀のような施設があったと考えることができました。

遺物は土器片が少量出土しました。

調査区内では一番古い遺構で平安時代のもものとみられます。



調査区全景(遺跡西側から撮影)



前向きな意見が寄せられた13区住民説明会(左)/除外の勧告を受けた柳之御所跡(右上)/文部科学省で開催された推薦書作成委員会(右下)



登録に向けて

今月の世界遺産委員会での正式登録に向けて大詰め協議が行われています。

5月11日には、菅原町長が達増岩手県知事を表敬訪問し、登録に向けた今後の取り組みについて意見交換をしました。

また同日、文化庁では国・県の担当者により世界遺産委員会までの対応について、事務打ち合わせが行われました。

12日には世界遺産登録に向け、住民と行政が一体となった取り組みについて協議する町世界遺産地域協議会が、町役場で開かれました。

町内の観光、商工業、農業、住民団体の代表者や町職員らが出席し、勧告の概要説明を受けて柳之御所遺跡の除外などについて意見交換したほか、世界遺産委員の審議結果が登録となった場合、決定日の翌日夜に報告会を行うことが決められました。

住民の願い

イコモスから、柳之御所遺跡を除外すべしとの条件が示され

たことから16日、遺跡が所在する13区の住民を対象に、これまでの取り組み経過や勧告内容などの状況説明が行われました。

説明会には13区民ら約50人が出席。参加者からは「除外は残念」としながらも「勧告を受け入れて登録を確実なものにしてほしい」「柳之御所遺跡の価値は、構成資産から除外されようとも変わりはない。むしろ、今後もしっかりと調査・研究を進めてほしい」という強い要望や前向きな意見が寄せられました。

勧告内容を検証

第9回推薦書作成委員会が19日、文部科学省で開催されました。会議ではイコモス勧告の内容、特に柳之御所遺跡の除外や資産名称の変更などについて意見が交わされました。

結論として「推薦内容の全てが認められたわけではなく、イコモスとの意識の違いを感じるが、今回の評価に対して一定の敬意を払う必要がある」との意見が大勢を占めました。

文化庁長官を表敬

菅原町長は25日、一関・奥州市長とともに文化庁に赴いて近藤誠一文化庁長官を表敬しました。

文化庁の適切な指導に感謝しつつ、世界遺産委員会での登録決議を確実なものにするよう、さらなる取り組みの強化を要請しました。

審議は23～26日ごろ

第35回ユネスコ世界遺産委員会が今月19日からフランスのパリで開催されます。

「平泉の文化遺産」の登録可否の審議は、現地時間の23～26日ごろと見込まれています。町では今後も引き続き、外務省・文化庁・岩手県と連携し、確実な登録に向け最大限の努力で取り組んでいきます。